中部様式

令和７年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
（及び地域公共交通計画の評価結果）　概要（全体）

関市公共交通活性化協議会
（関市）

平成２１年　３月２１日設置

令和　４年　３月２３日　関市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和４年４月～令和９年３月）

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
・地域公共交通調査事業

地域の特性

・岐阜県の中心部に位置
　Ｖ字型　472.33㎢
　長良川鉄道が市の中心部を南北に運行
・市内移動の大部分をバスで担う

公共交通計画名及び期間

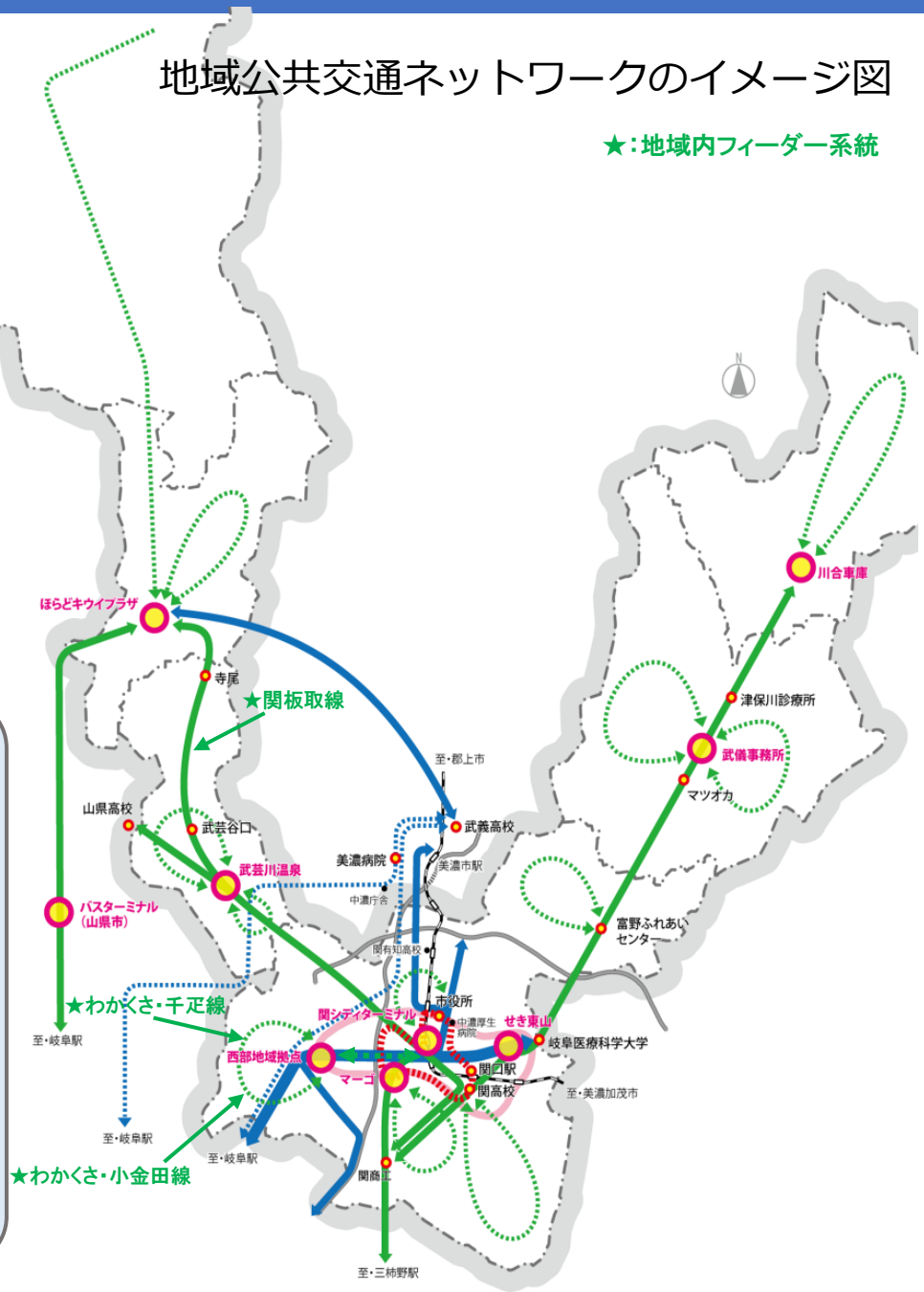
「関市地域公共交通計画」
（令和４年度～令和８年度）

計画で目指す公共交通の将来像

ずっと暮らし続けられる関市を支える
地域公共交通ネットワークの構築

- 目標１　高校生が公共交通で通学できるサービスの提供
- 目標２　より多くの人が使いやすい公共交通サービスの提供
- 目標３　持続可能な公共交通サービスの確保

地域公共交通ネットワークのイメージ図



★：フィーダー補助路線該当施策

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群１ 2バス路線の再編	市中心部を運行する買い物循環線を**1時間に１本に増便**し、**パターンダイヤ**を採用（R2.10再編）	年間利用者数 令和３年度　43,509人 令和４年度　52,270人 令和５年度　56,827人 令和６年度　61,042人 令和７年度　65,479人	**毎年利用者が増加**を続けており、関シティバスの主要路線。バス停近くに複合型商業施設がオープンしたこともあり、多くの方に利用されています。
施策群１ 2バス路線の再編	デマンド乗合タクシーの運行地区から商業施設マーゴまでの直行便について、実証実験を実施（R7.7～R7.9）	３ヶ月間での利用実績 ・運行回数 下有知地区　9回 瀬尻･広見地区　26回 ・利用者数（延べ） 下有知地区　7人 瀬尻･広見地区　5人	自治会からの要望を受けて実証運行を行ったが、利用者が少なく実現化には至りませんでした。周知方法、潜在需要の把握に課題を残しました。
★施策群１ ４バス停・駅環境の改善	・バスカット設置工事を実施 ・関下有知駅の駐輪場の舗装工事を実施 ・関シティターミナル男子トイレの小便器を改修	 	**長年、自治会から要望されていたバス停の新設**に向けてバスカットを施工しました。今後、バス利用者が増えるよう周知を行います。 工事や修繕を通して、利用者が使いやすい環境の実現に取り組みました。

★：フィーダー補助路線該当施策

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群２ ３学生通学支援補助制度の実施	高速名古屋線の通学定期乗車券購入に対して１カ月あたり **１０，０００円補助** 令和６年１０月から**オンライン申請**での対応を開始	令和５年度　申請者７８人 補助金額　2,340,000円 令和６年度　申請者９１人 補助金額　6,925,000円 令和７年度　申請者９３人 補助金額　4,980,000円 ※R7は11月末現在	市内の高校や**塾にも案内チラシを配布**し制度を周知。**オンライン申請が増加（申請件数全体の約80%）**し、申請件数も増加しています。今後も継続して周知活動を実施します。
施策群２ ４高齢者運転免許証自主返納者への支援 	７５歳以上の市民を対象に関シティバスで使用できる「関市高齢者バス回数券」を令和７年１０月に配布。	発送者　13,698人 回数券　3,000円分 （100円×30枚綴り） 利用実績　10月：4,170枚 11月：4,381枚	高齢者の関シティバスの利用の促進と、健康の増進のために配布しました。一部の市民でバスに乗るきっかけとなりましが、回数券による利用者の増加傾向は見られず、今後制度の再検証が必要です。
★施策群３ ４バス・タクシー利用促進イベントの実施 	園児による車内装飾ＥＶバス（ハロウィン装飾バス）の運行	参加者　富岡保育園児31名 装飾車両　１台 運行期間　10月1日～11月3日 運行路線　買い物循環線 わかくさ･小金田線 わかくさ･千疋線	公共交通に親しみをもってもらえるよう園児が自ら装飾を行いました。後日、**家族で装飾バスに乗車したといった声も聞かれ**、公共交通を利用してもらうきっかけづくりを行うことができました。

★：フィーダー補助路線該当施策

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群３ ５長良川鉄道利用促進イベントの実施 	市内小学校の社会見学として、体験乗車と施設見学を実施	令和６年度 実施学校数　4校 受入児童数　154人 令和７年度 実施学校数　4校 受入児童数　176人	市教育委員会を通して受入募集を行い、長良川鉄道の協力を得て実施しました。地域鉄道として親しみを持ってもらい、将来通学やおでかけで利用してもらうきっかけ作りを行うことができました。
★施策群４ ４バスの乗り方教室の実施 	デマンド乗合タクシー（マーゴ便）の実証実験の周知を兼ねて各運行地区で乗り方教室を開催	デマンド乗合タクシー乗り方教室 ・下有知地区 開催回数　2回 参加者数　55人 ・瀬尻･広見地区 開催回数　3回 参加者数　83人	６月から７月にかけて、デマンド乗合タクシー運行地区の老人クラブの会合に参加し、乗り方教室を開催しました。参加者にはマイカー利用者も多く、公共交通への利用転換の難しさを感じました。

地域公共交通調査事業　～実施した調査およびその結果明らかになったこと～

事業内容	結果概要
地域特性の把握・整理	本市の地理的条件や道路網の状況、人口分布、施設立地などの地域特性を把握するため、既存資料を基に状況整理を行っています。市域の東部では区画整理が進み、今後人口分布が変わる可能性があります。
利用実態及びニーズに係る調査	乗降調査、利用者アンケート調査、高校生アンケート調査、全国交通系ＩＣカード等のデータ集計など、利用実態や潜在的なニーズを探るための調査を実施しています。利用者の多くは高齢者ですが、休日の買い物循環線は、２０歳代以下の若者が多く利用していることがわかりました。
公共交通の現状分析	既存資料及び各種調査の結果を基に、公共交通の運行状況、利用者数、運賃、収支・補助状況等、公共交通の概況の整理と分析を行っています。コロナ禍が終わり、利用者は全体的に増加傾向でコロナ禍を上回る便もありますが、デマンドバスで利用が減少している便も見られました。
市民意見交換会の開催	地域の意見を把握して地域公共交通計画に反映させるため、各地域において市民意見交換会を５回を実施し、各地域での意見を聴取しました。市民からは、利用方法の周知不足や、より自由度の高い公共交通の要望など、様々な意見が聞かれました。

地域公共交通調査事業　～調査結果の地域公共交通計画への反映～

●調査の結果は、現在取りまとめ中のため、結果を明確にお示しできませんが、以下のような現状がみられるため、それを改善するための方針を検討して計画に反映させ、市民が利用しやすく持続可能な公共交通の実現を目指します。

- ■ 現行の関市の公共交通サービスは、コロナ禍を経て、全体として利用者数に回復傾向は見られますが、路線によっては利用者に減少傾向が見られるため、実態に即した運行方式への見直しを行います。
- ■ 物価高騰や人件費の増加を受けて、運行経費は増加を続けており、公共交通に対する市の負担額も増加を続けているため、ニーズに応じた運行方式への見直しにより、運行経費の抑制を図ります。
- ■ 高齢者から、デマンドの予約方法が分かりづらい、バスやタクシーの乗り方が分からないといった声が多く聞かれたため、乗り方教室等で丁寧な周知活動に取り組み、市民が利用しやすい公共交通の実現に努めます。
- ■ 利便性が向上し利用者が増えるために、必要な時に必要な場所に行ける、より自由度の高い公共交通を望む意見があったため、利用しやすい交通体系の構築に向けて検討を行います。

自己評価　関市公共交通活性化協議会　令和８年１月２８日（水）

評価指標	目標値	実績値					考察
		１年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
【指標①】 市内の高校に送迎で通学している高校生の割合（%）	８%以下	9.3 %	7.9 %	10.5 %	9.6 %		前年度と比較して０．９%減少。武義高校のアンケート回答数が大きく増えたことで送迎率に影響し、減少したものと推察。
【指標②】 人口１人あたりの公共交通の年間利用回数（回/人）	９.0 回/人以上	10.1 回/人	11.1 回/人	11.3 回/人	11.2 回/人		前年度と比較して０．１回/人減少。R7.4に岐阜美濃線が武義高校線となり、朝夕のみの運行となったことで利用者が減少したことによる影響と推察。
【指標③】 公共交通の維持に必要な市民１人あたりの年間負担額（円/年）	5,253円/年以下	5,598 円/年	5,739 円/年	6,033 円/年	7,085 円/年		燃料費等物価高や人件費増により、増加傾向にある。長良川鉄道の信号保安設備への補助金が、部品調達の遅れにより次年度に繰越となり、大きく増加したものと推察。
【参考】 市民の満足度向上（%）	満足 11.2%以上 不満足 50.8%以下	13.９ % 30.8 %	15.3 % 38.8 %	14.0 % 29.0 %	16.4 % 31.3 %		満足、不満足ともに増加し、普通との回答が減少した。

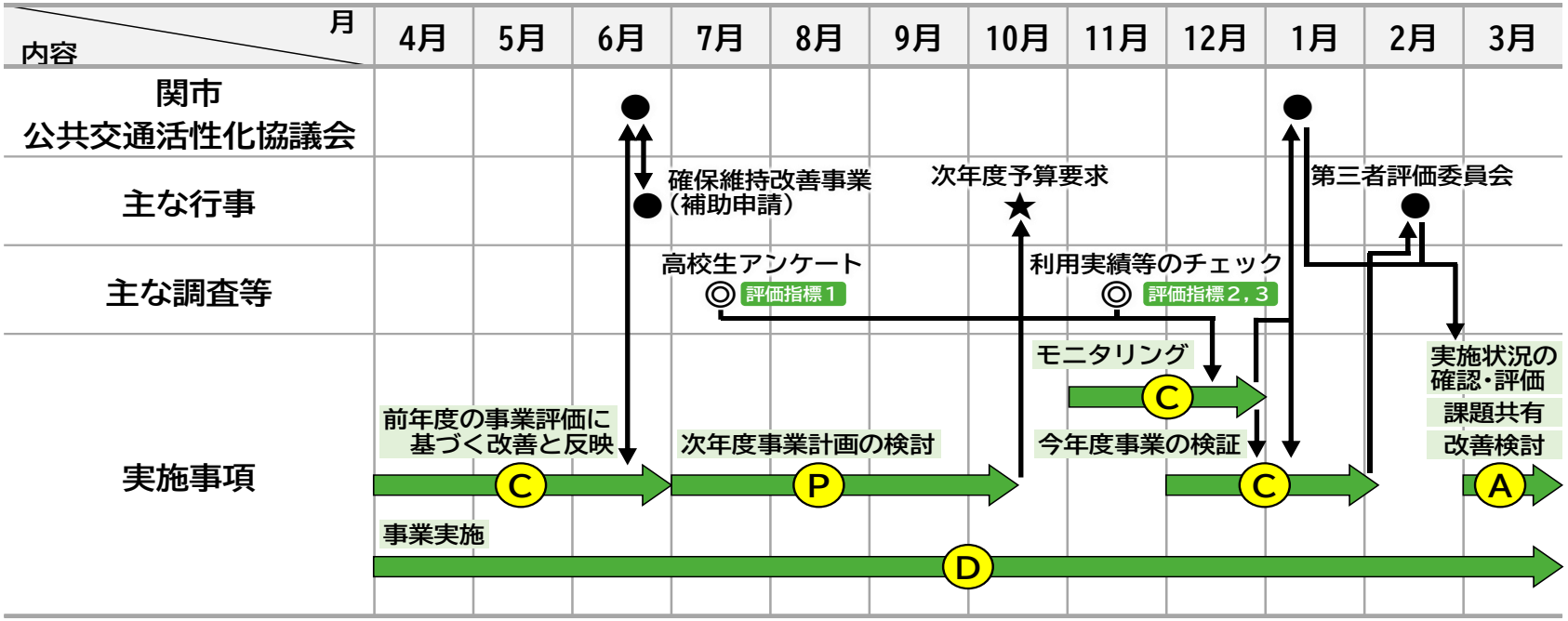
作成目標の現在の到達点	今後の取組方針
【指標①】 今年度目標値を達成できなかった。 アンケートの回答率の影響もあり、毎年増減しているが、未達成となる場合が多い傾向にある。	・昨年度見送りとなった、**高校生を対象とした長良川鉄道の定期乗車券補助事業**の実施に向けて検討する。 ・進学を控えた中学生や高校生を対象に、公共交通を利用した通学方法や助成制度の案内チラシを継続的に配布し、若い世代の公共交通利用を促進していきたい。
【指標②】 人口１人あたりの公共交通の年間利用回数はコロナ禍により低下、徐々に復調傾向にあるものの、利用者の数は停滞している。	・今年度実施した市民意見交換会で、公共交通の利用の仕方がわからないといった声が多く聞かれたため、**乗り方教室を積極的に実施し、利用促進を図りたい**。 ・新たに商業施設を経由することとした千疋線は利用者の増加が続いており、引続き各路線の傾向を分析しながら、利用促進に繋がる周知活動を行っていきたい。
【指標③】 公共交通の維持に必要な市民１人あたりの年間負担額は増加が続いている。	・昨今の大幅な物価高騰や人件費の増加に伴い、運行経費も大きく増加しているため、それに付随して市の欠損補助等の経費も増加し、年間負担額の減少は見通せない。 ・**次期地域公共交通計画において、交通体系の見直しを行い**、ニーズに即した運行を行うことで負担額の抑制を図りたい。
【参考】 市民の満足度向上は「満足」「不満」がともに減少し、「ふつう」の評価が増加した。	・今年度実施した乗降調査、利用者アンケート調査、市民意見交換会等の結果を踏まえ、**利用状況やニーズを把握**し、改善につなげていきたい。

資料1（追加）

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
前回	買い物循環線について、引き続き沿線の商業施設と連携した積極的な周知に努めるなど、利用促進に努められるよう期待します。	園児による装飾バスの運行などにより、ＥＶバスのＰＲやバスの利用促進に努めましたが、商業施設との連携は実施できませんでした。	商業施設に近いバス停の利用者が多いため、既存施設での周知活動に加えて、バス停近くに商業施設が新規オープンした際には、時刻表を置いてもらうなどの協力依頼を行い、積極的な周知活動を行っていきます。
	地域公共交通の主な利用者となる学生のニーズへの対応も期待します。	利用者が増加している高速名古屋線の通学定期乗車券購入補助金について、学校や塾にチラシを配布したほか、成人式でもチラシを配布し、さらなる周知に努めました。	長良川鉄道の通学定期券への補助等、新たな助成制度を検討するほか、高校生アンケートを継続的に実施して若者のニーズの把握に努めます。
	輸送実績や収支率が低い系統について、生活交通の確保維持に向け、沿線自治体、関係事業者との情報共有及び連携した取組の実施に期待します。	乗降調査、利用者アンケート調査、市民意見交換会等を今年度実施しました。今後、現状と課題を整理し、関係者と情報を共有して輸送量や収支率の改善を検討します。	地域によって課題やニーズが異なるため、地域の実情に沿った輸送方法を関係事業者とともに検討していきます。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
前々回	地域内フィーダー系統の補助要件に満たない路線については、現状把握や分析を進め、より住民のニーズに沿った公共交通サービスへの見直しも含め、関係者と連携し、検討や取組が進められることを期待します。	・武儀、上之保地域から武義高校へ通う生徒が、帰宅時の長良川鉄道と関上之保線の乗継時間が短く、乗り継げないことがあるとの意見を受け、１０月のダイヤ改正で関上之保線のダイヤ調整を行い、乗り継ぎ時間を確保しました。 ・自治会要望により、東山４丁目集会場にわかくさ・富野線の乗降地点を新設し、令和７年１月より運行開始します。新設にあたっては、バスの乗り方教室を開催し、デマンド予約の方法を解説し、利用促進を図りました。	・自家用有償旅客運送を実施している地域では、定時運行からデマンド運行を希望する声も出てきているため、地域の要望を聞きながら、輸送モードの変更について、検討、支援していきます。 ・自治会要望や公共交通会議での意見交換を参考に、より良い公共交通サービスが提供できるようニーズ把握に努めます。
	引き続き、高校進学を控えた中学生を対象として公共交通での通学に係る案内や支援に取り組まれることを期待します。	・中学生、高校生を対象とした、通学に利用できる公共交通や、助成制度の案内を実施しました。 ・今年度は、上記以外にも、市内の学習塾へも案内チラシを送付し、更なる周知活動を実施しました。	・来年度は長良川鉄道の通学乗車券購入補助事業も実施予定であるため、広く周知して利用促進を図ります。 ・高校生アンケートを継続実施して、ニーズ把握に努め、改善の参考とします。
	EVバス導入については、ゼロカーボンシティの実現や公共交通の魅力向上のほか、持続可能な公共交通につながることを期待します。	・昨年度に続き、今年度も１台のEVバスを導入しました。 ・１０月に開催された、せき環境フェア２０２４に出展し、来場者へEVバスの紹介をし、公共交通の魅力を広く周知しました。	・来年度もEVバス導入を予定しています。運行実績を参考にし、デマンド運行車両のEV化も検討していきます。

■年間スケジュール



【協議会の実施状況】

第１回協議会	令和７年６月３０日	主な議題	・地域公共交通確保維持事業承認 ・第三者評価委員会の評価報告
書面表決	令和７年９月１２日	主な議題	・デマンドバスの車両変更 ・自家用有償旅客運送の使用車両変更
第２回協議会	令和８年１月２８日	主な議題	・地域公共交通確保維持改善事業評価 ・令和７年度関シティバス運行実績報告 ・バス停の新設報告